

平成 13 年 7 月 31 日

各 位

平成 14 年 3 月期第 1 四半期の業績等の概況

会 社 名 ネクストウェア 株式会社
 (コード番号: 4814)
 U R L <http://www.nextware.co.jp>
 本社所在地 大阪市中央区北久宝寺町 4-3-11
 問 合 せ 先 責任者役職名 取締役副社長
 氏 名 太田 修啓
 T E L (06) 6281 - 9866

1. 業 績

(1) 平成 14 年 3 月期第 1 四半期 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 13 年 6 月 30 日) の業績

(単位 : 百万円)

	14 年 3 月期第 1 四半期 (当四半期)	前 年 同期比	13 年 3 月期第 1 四半期 (前年同四半期)	参 考 前期 (通期)
売 上 高	7 0 4	118.8%	5 9 2	2 , 8 3 0
営 業 利 益	2 1	67.6%	3 2	2 6 9
経 常 利 益	2 0	71.5%	2 8	2 2 6

尚、当社は、当四半期より連結決算 (連結子会社 1 社 ネクストアイ(株)) を行っております。

平成 14 年 3 月期第 1 四半期の連結の業績は、売上高 723 百万円、営業利益 16 百万円、経常利益 14 百万円となっております。

(2) 部門別の売上高内訳

(単位 : 百万円)

	14 年 3 月期第 1 四半期 (当四半期)		前 年 同期比	13 年 3 月期第 1 四半期 (前年同四半期)		参 考 前期 (通期)	
	金 額	構成比		金 額	構成比	金額	構成比
システムアクトリシグ 部門	7 0 0	99.5%	118.5%	5 9 1	99.7%	2,618	92.5%
ウェアコンサルティング 部門	3	0.5%	204.5%	1	0.3%	211	7.5%
合 計	7 0 4	100.0%	118.8%	5 9 2	100.0%	2,830	100.0%

連結売上高の内訳は、システムアクトリシグ部門 720 百万円、ウェアコンサルティング部門 3 百万円となっております。

(3) 主な資産・負債の変動について

(単位 : 百万円)

項 目	14 年 3 月期第 1 四半期	増減額	前期末
(資 産)			
現 金 預 金	1 , 3 5 2	9 3	1 , 2 5 9
売 掛 金	4 3 5	1 7 6	6 1 2
仕 掛 品	1 1 8	4 4	7 3
投 資 有 価 証 券	6 1	6 0	1
子 会 社 株 式	3 0	3 0	
(負 債)			
短 期 借 入 金	1 5 0	1 5 0	
1 年以内返済予定長期借入金	9 4	4 0	1 3 5
未 払 法 人 税 等		6 1	6 1
未 払 消 費 税 等		2 3	2 3

(注) 平成 14 年 3 月期第 1 四半期の業績につきましては、当期より連結決算を行っておりますので、前期計数との比較が出来ない為、個別決算ベースで記載しております。

項目	14年3月期第1四半期	増減額	前期末
(株主資本) 任意積立金	158	100	58

- (注) 1. 項目ごとの変動額が総資産額の1%を超えるものを記載しております。
2. 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。
3. 当四半期から連結決算を行っておりますので、連結数値で前期末との比較が出来ない為、連結計数について記載しておりません。

2.業績の概況

(当四半期の業績)

当四半期における我が国経済は、米国経済の減速の影響を受け、IT企業業績の悪化、株式市場の低迷、個人消費の低迷と依然として厳しい状況が続きました。一方、当社を取り巻く産業においては、各企業における情報システム化投資に支えられ、引き続き好調に推移いたしました。

このような環境の中、当社は、前期末受注残の消化および新規顧客を開拓すべく営業展開を行いました。また、当社受注案件対応で恒常的に不足している開発技術者を積極的に採用したことにより当四半期末の従業員数は311名(前期末比32名増加)まで増加し、新規採用者の研修センターとして「青山人材/開発センター」を開設することとなりました。

その結果、売上高は、704百万円(前年同期比18.8%増)と拡大しました。

(部門別売上・システムアウトソーシング事業)

主要顧客をベースに新規顧客の開拓を積極的に行い、順調に受注量を拡大いたしました。従来のデータベースを基盤とした情報系システムの構築、Web系システムに加えてポータルサイトの運營業務及び中堅企業の統合システムの導入コンサルティングから開発・運用管理までのトータルシステムを受注いたしました。また、ネクストアイ(株)を平成13年4月に子会社化し、金融の分野の受注にも注力いたしました。

その結果、システムアウトソーシング事業の売上高は700百万円(前年同期比18.5%増)となりました。

(部門別売上・ウェアコンサルティング事業)

当四半期においては、対象顧客に対するコンサルティング活動を活発に行いました。主な分野は「メディカルウェアコンサルティング(医療・福祉)」分野で、訪問看護支援システムのサポートセンターを開設し、全国20病院のヘルプデスクを開始いたしました。また、「インターネット」分野でも、全国のSOHO事業者支援のための事業に注力いたしました。

その結果、ウェアコンサルティング事業の売上高は3百万円(前年同期比104.5%増)となりました。

(売上原価及び売上総利益)

売上原価は547百万円(前年同期比23.5%増)となりました。主な増加の要因は、システムアウトソーシング事業の売上増加によるもの、教育研修中である新卒採用・中途採用者(合計40名)及び平成13年5月に開設した「青山人材/開発センター」のコスト増等によるものであります。又、受注案件増加により仕掛品が増加となりました。

これにより売上総利益は、156百万円(前年同期比5.0%増)となりました。

(注)平成14年3月期第1四半期の業績につきましては、当期より連結決算を行っておりますので、前期計数との比較が出来ない為、個別決算ベースで記載しております。

(販売費及び一般管理費)

販売管理費は、134 百万円（前年同期比 15.4%増）となりました。主な増加の要因は、営業組織強化による人件費の増加及び売上増加に伴う変動費の増加であります。しかしながら、売上高販売管理費比率においては、前年同期比 0.6 ポイント低下させることが出来、効率的な経営組織の強化が図れました。

(営業利益)

新規採用の開発技術者（40 名）の研修費用及び「青山人材 / 開発センター」の開設費用等により、営業利益は 21 百万円（前年同期比 32.4%減）となりました。

(営業外収益および費用)

株式公開前後に借入金を大幅に圧縮したことより、支払利息が前年同期比 69.6 ポイント低下いたしました。その結果、営業外費用が 2 百万円（前年同期比 61.4%減）となりました。

(資産・負債・資本)

当四半期末における資産合計は、2,210 百万円（前期末比 4.6%増）、負債合計 789 百万円（前期末比 10.8%増）、株主資本合計 1,421 百万円（前期末比 1.4%増）となりました。

主な勘定科目を前期末と比較いたしますと、以下のとおりであります。

主な増減科目	前期末比増減額 (百万円)	増 減 要 因
(資 産)		
現 金 預 金	9 3	平成 13 年 3 月末の売掛金残高の当期回収により増加いたしました。
売 掛 金	1 7 6	
仕 掛 品	4 4	一括受託案件の未検収額を計上しております。
投 資 有 価 証 券	6 0	平成 13 年 6 月に下記の 2 社に対して、事業戦略上の投資を行っております。 ・(株)サイバープロ 20 百万円（出資比率 18.2%） ・(株)ウェブベース 40 百万円（出資比率 3.3%）
子 会 社 株 式	3 0	平成 13 年 4 月に、ネクストアイ(株)を子会社化いたしました。（30 百万円、出資比率 75.0%）
(負 債)		
短 期 借 入 金	1 5 0	納税資金及び賞与資金の調達を行いました。
1 年以内返済予定長期借入金	4 0	約定返済により減少いたしました。
未 払 法 人 税 等	6 1	納付により減少いたしました。
未 払 消 費 税 等	2 3	
(株 主 資 本)		
任 意 積 立 金	1 0 0	第 11 期定期株主総会の利益処分決議に基づき、100 百万円を積み立てました。

(注)平成 14 年 3 月期第 1 四半期の業績につきましては、当期より連結決算を行っておりますので、前期計数との比較が出来ない為、個別決算ベースで記載しております。

3. 当期の見通し

平成14年3月期(平成13年4月1日~平成14年3月31日)における当社単独の業績見通しは次のとおりであります。

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	1株当たり 配当金
平成13年3月期(実績)	2,830	226	137	36,740.42円	-
平成14年3月期(予想)	3,800	380	180	41,763.34円	-
平成13年3月期 中間(実績)	1,244	70	56	16,253.49円	-
平成14年3月期 中間(予想)	1,600	85	40	9,280.74円	-

(注)1.平成13年3月期の1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。

2.平成14年3月期の1株当たり当期純利益は、予想期末発行済株式総数4,310株により算出しております。

また、当期の連結業績見通しは次のとおりであります。

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
平成13年3月期(実績)	-	-	-
平成14年3月期(予想)	4,000	400	190
平成13年3月期 中間(実績)	-	-	-
平成14年3月期 中間(予想)	1,680	80	36

4. その他

(1) 株大阪証券取引所 ナスダック・ジャパン市場における所属の変更について

平成13年7月19日に、(株)大阪証券取引所の承認を得まして、平成13年8月1日より「グロース」から「スタンダード」に変更となります。尚、当市場においての所属変更は当社が初めてでございます。

(2) 取締役及び従業員に譲渡するための自己株式取得について

平成13年7月13日に標記について、(株)大阪証券取引所 ナスダック・ジャパン市場におきまして、163株(取得総額85,901千円)を取得しております。

以上

(注)平成14年3月期第1四半期の業績につきましては、当期より連結決算を行っておりますので、前期計数との比較が出来ない為、個別決算ベースで記載しております。